

2024 年度 西中国山地における堅果類等の豊凶調査結果および
島根県における秋季のクマ出没予測について（速報）

島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科

1. 背景・目的

秋季のツキノワグマは冬眠に備えて食欲亢進期に入り、餌資源を求めて移動する。山林内の堅果類等の餌資源量が少ない場合は、食べ物を求めて長い距離を移動することが知られており、このことが大量出没の一因といわれている。本調査は、秋季におけるツキノワグマの主な餌資源である堅果類等の豊凶状況とツキノワグマの出没状況を調査することで、行政等の迅速な対応と被害を回避するための注意喚起を目的に実施した。

2. 調査方法

調査対象樹種はブナ、ミズナラ、コナラ、シバグリ、アラカシ、スダジイ、シラカシの堅果類7種とクマノミズキとウワミズザクラの液果2種で、ウワミズザクラは5-6月に、そのほかの種は8-9月に調査を行った。20 kmメッシュごとに生育している調査対象樹種からそれぞれ調査木を3本選定し、目視により果実数を数えた。

島根県における秋季の出没予測は、20 kmメッシュごとの出没数（目撃数+捕獲数+痕跡数）を目的変数として、前回の大量出没からの年数、今年度の8月までの捕獲数と豊凶調査の結果を説明変数として解析を行った。

3. 結果

①豊凶調査の結果について（表1、図1）

島根県の豊凶の状況は、ブナ、ミズナラ、コナラ、クマノミズキが凶作で、それ以外の樹種は豊作であった。島根県・広島県・山口県を合わせた西中国山地の豊凶状況は、ブナとクマノミズキが凶作で、それ以外の樹種は並作から豊作となった。西中国地域の西部では、コナラとスダジイが凶作であった。また、島根県と広島県県境の森林では、ナラ枯れの被害を受けて枯死したミズナラが多数観察された。

②秋期の出没予測について（図2）

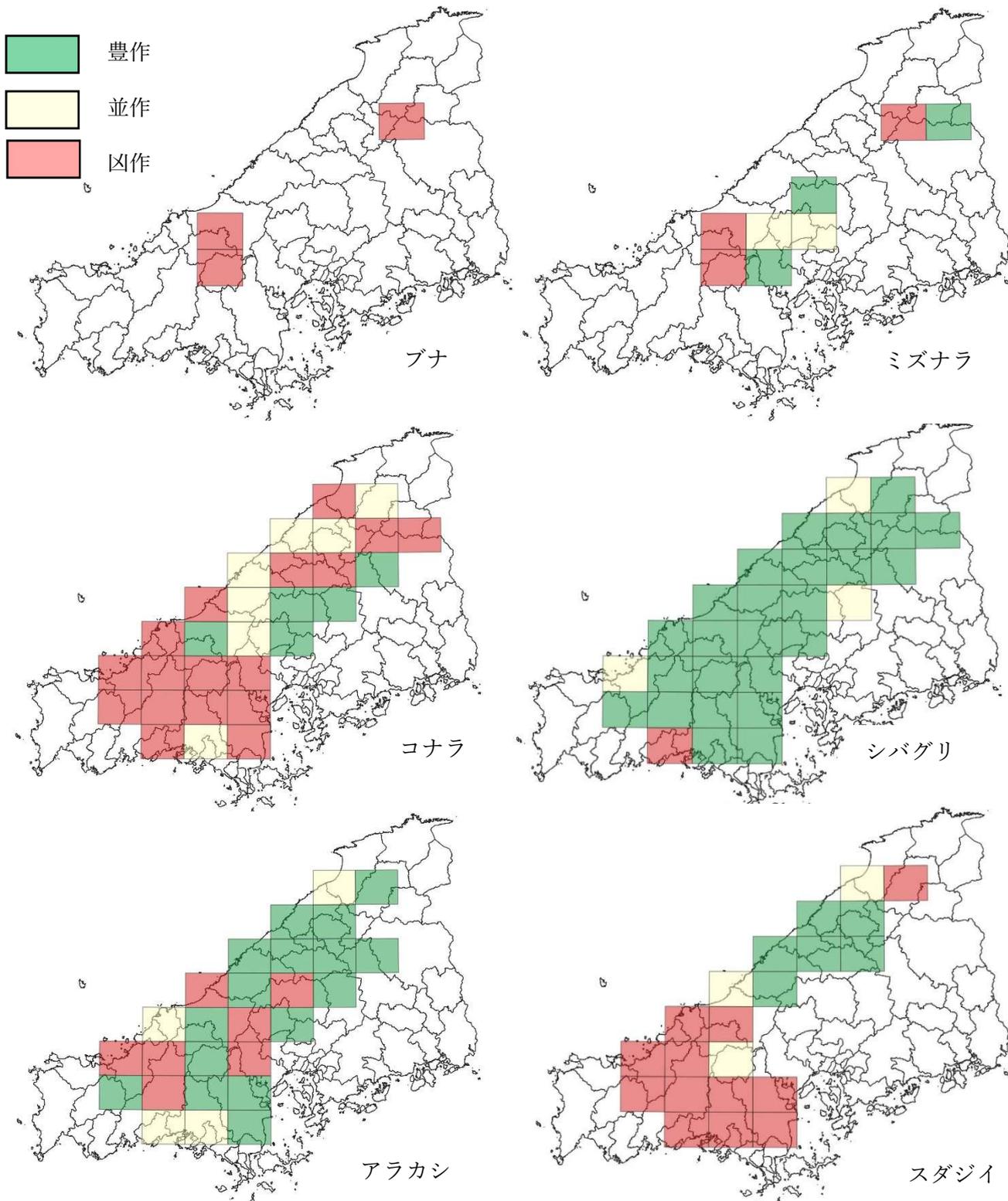
島根県における秋季（10月から12月にかけて）のメッシュごとの出没数は、例年の105%から307%と推定された。県全体では例年の147%—271%の出没数と推定された。

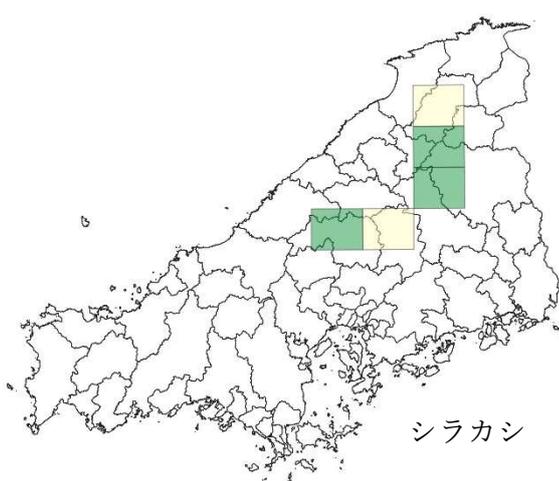
4. 注意事項

島根県における2024年度の秋季は、例年よりもツキノワグマが多く出没することが予想されたため、いずれの地域においても、人家周辺等人の活動圏ではツキノワグマの出没を抑制する対策を行ってください。カキやクリなどの放任果樹や生ゴミなどツキノワグマを誘引するような物については、果実の除去やトタン巻き、生ゴミを野外に放置しないなどの対応が必要です。特に、クリの実がなくなる10月末以降は集落内の餌資源を求めて、クマの出没が増加する可能性がありますので、誘引物の除去など早めの対策をお願いいたします。また、近年はツキノワグマが生息している地域が拡大傾向にあることから、これまで出没の少なかった地域においても、ハイキングや登山、キノコ採集などで山林内に入る際だけでなく、人里周辺においてもクマの被害に遭わないように十分に気を付けてください。

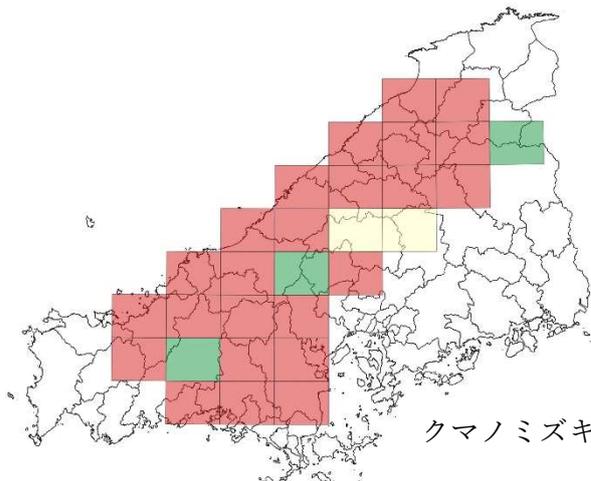
表1 西中国三県における堅果類等の豊凶基準に基づく評価

	ブナ	ミズナラ	コナラ	シバグリ	アラカシ	スダジイ	シラカシ	クハミズキ	ウミズガラ
島根県	凶作	凶作	凶作	豊作	豊作	豊作	豊作	凶作	豊作
広島県		豊作	豊作	豊作	豊作		豊作	並作	豊作
山口県			凶作	豊作	並作	凶作		並作	豊作
西中国平均	凶作	並作	並作	豊作	豊作	並作	豊作	凶作	豊作

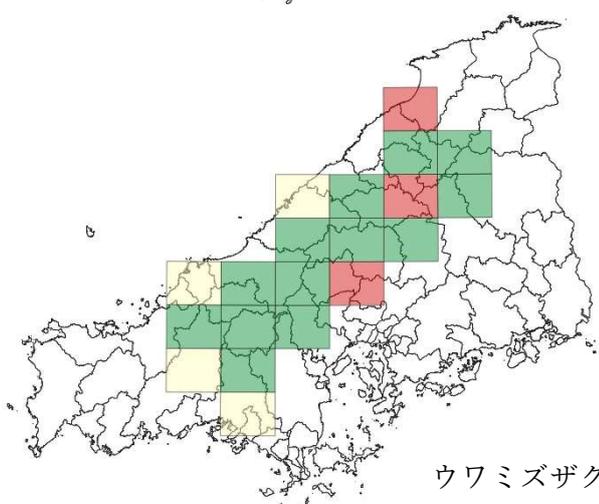




シラカシ



クマノミズキ



ウワミズザクラ

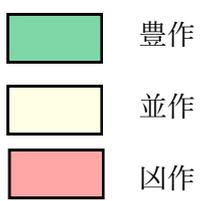
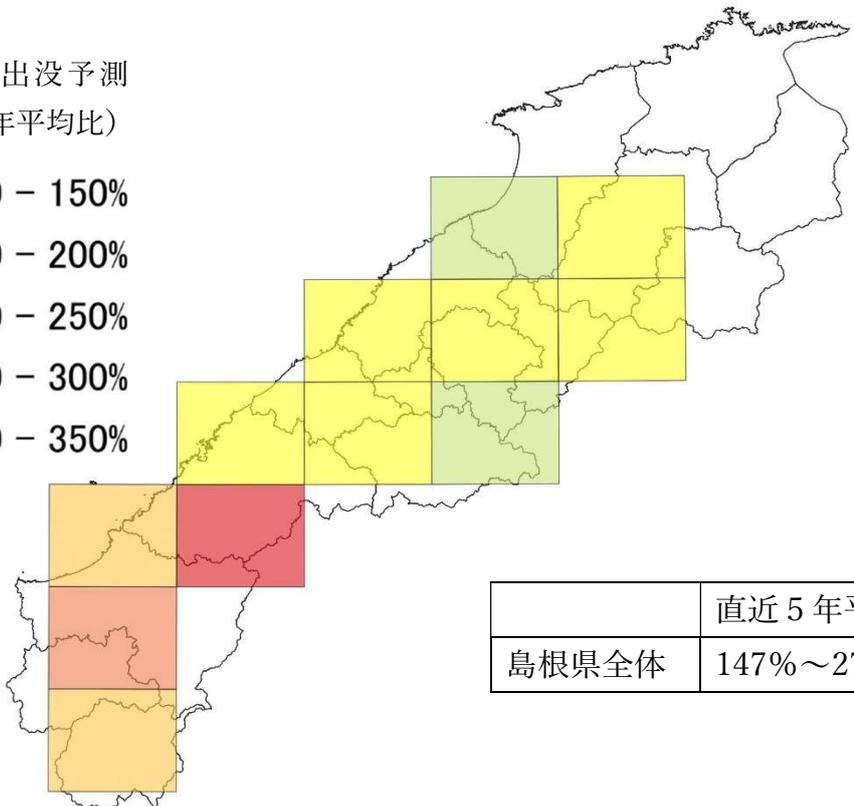


図1 西中国地域における 20 kmメッシュごとの各樹種の豊凶状況

秋季クマ出没予測
(直近5年平均比)



	直近5年平均比
島根県全体	147%~271%

図2 島根県における 2024 年秋季のクマ出没予測